

11/30(日)第7回飛騨高山学会

宝探しによる朝日町の魅力の再発見 ～朝日町主体のまちづくりに向けた提案～

文教大学国際学部
国際理解学科3年 諏訪 天耶
国際観光学科3年 チン コクション

目次

はじめに

- 調査の背景
- 関心の所在
- 調査対象

調査の枠組み

- 目的
- 調査の概要

調査結果

考察

提案

1.はじめに

1.1 調査背景

- ・ 都市では日常生活においても「効率性」が優先されるが、効率性に囚われて本質的な価値がないがしろになっている。
- ・ 過疎地とされる土地に住む人は「効率性」より大切な価値を見出しているのではないか。そこに住み続けたい理由はなにか興味を持った。



高山市からの地域活性化に関する出題を受け取った。



上記の関心をもとに、高山市における過疎地域を題材に研究をしたいと考えた。

1.2 関心の所 在

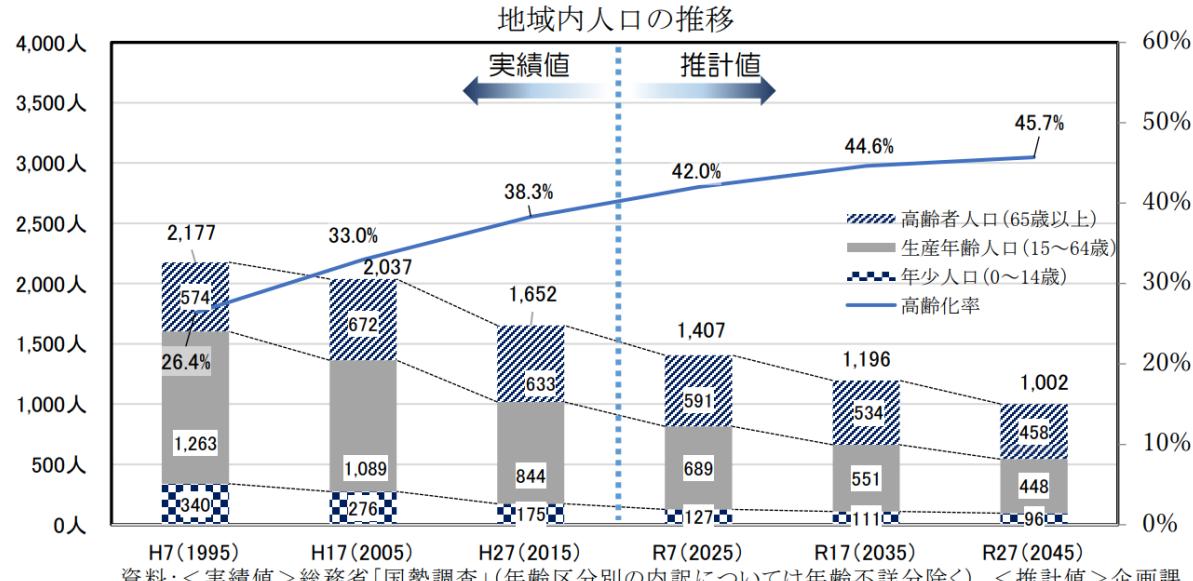
岩手県二戸市で外部者の視点を用いて地域活性化を進めた真板昭夫氏(北海道大学客員教授)をゲストスピーカーに招いてゼミで講義を受けた。

【仮説】

住民が「住み続ける理由は『地域の宝』」が存在する。
(2024年5月29日)

- ・高山市内の過疎地域とされる場所で、そこに住み続ける理由(宝)を知りたいと考えた。
→高山市では、6地域が過疎地域に指定されている。
→このうち朝日町を対象に「住み続ける理由」を深ぼりしたいと考えた。

1.3 研究対象地：朝日町



資料:<実績値>総務省「国勢調査」(年齢区分別の内訳については年齢不詳分除く)、<推計値>企画課

出典:高山第八次総合計画基本計画



出典:飛騨高山旅ガイド(2025年)

- ・朝日町の課題→過疎化、少子高齢化、空き家問題などがある
 - ・住民の3割は活性化に賛成だが7割はこのまま維持で良いや、働き口が少ないため、1度町から転出すると9割は帰ってこないと考えている
 - ・朝日町の澄んだ空気と空の明瞭さに魅力を感じた。
 - ・高山市外の人の知名度が低いこと。

2. 調査の枠組み

2.1 目的

- ・地域の未来を考える際に基礎となる「宝」を把握し、可視化する
- ・住民が大切にしている「住み続ける理由」を明らかにする

「宝さがしとは」

★地域づくりにおいて必要なことは、まずは住民自身が地域を大切に思うこと。その価値を見える化する作業が「宝さがし」。宝探しを通して何が大事なのかが見えてくる。

調査	いつ	目的	手法と内容
(1)基礎調査	6/6(金)～6/26(木)	朝日町の現状を理解	文献・パンフレット・ネット・昨年度調査した学生ヘヒアリング
(2)アンケート調査(1404全世帯)	9/1(水)～9/19(日)	住民が感じる「宝」の収集	全世帯へQR付きアンケートを配布(まち協協力)
(3)現地調査	9/30(火) 13:00～18:30	外部視点で魅力を体感	道の駅/鈴蘭高原/美女高原を訪問
(4)ワークショップ	9/30(火) 20:00～21:00	宝情報の深掘り	参加者数25名と宝情報シート作成
(5)地図化	10/1(水) (朝日町支所の方へ依頼)	宝の分布を可視化	宝を地図にプロット・観光マップと比較

アンケート 項目

- ① 年齢をお聞かせください
- ② 朝日町に何年住んでいますか
- ③ 性別を教えてください
- ④ 朝日町の魅力はなんですか
- ⑤ ④の理由を教えてください
- ⑥ 朝日町における好きな料理はなんですか
- ⑦ 朝日町の四季の中で一番好きな季節はなんですか
- ⑧ ⑦の理由を教えてください
- ⑨ 朝日町の特産物はなんですか

3. 調查結果

2.①基礎調査の結果と考察

【結果】

- ・朝日町の課題→人口減少・高齢化、資源の保全・活用
- ・地域活性化に対する住民の意識 賛成3割:反対7割
- ・自然が豊富な地域であり、観光資源として活用されているものがある。
- ・2018年に鈴蘭高原スキー場が閉鎖。

【考察】

- ・地域活性化に対する住民の意識や、観光地の閉鎖などから観光による地域活性化は限界があるのではないか。

2.②アンケート調査 の結果と考察

【結果：回答数21】

④朝日町の魅力

自然や四季折々の景観 19件
/21件

○60代-70代 女性 朝日町在住
3年未満

「自然を大切に昔ながらの生活
を営んでいるところ」

○40代-50代 男性 朝日町在住
50年以上

「空気が美味しい。都会にはな
い感覚」

回答者のほとん
どが自然が朝
日町の魅力と回
答した。

2. ②アンケート調査 (続)

【結果】

⑦朝日町の四季の中で一番好きな季節

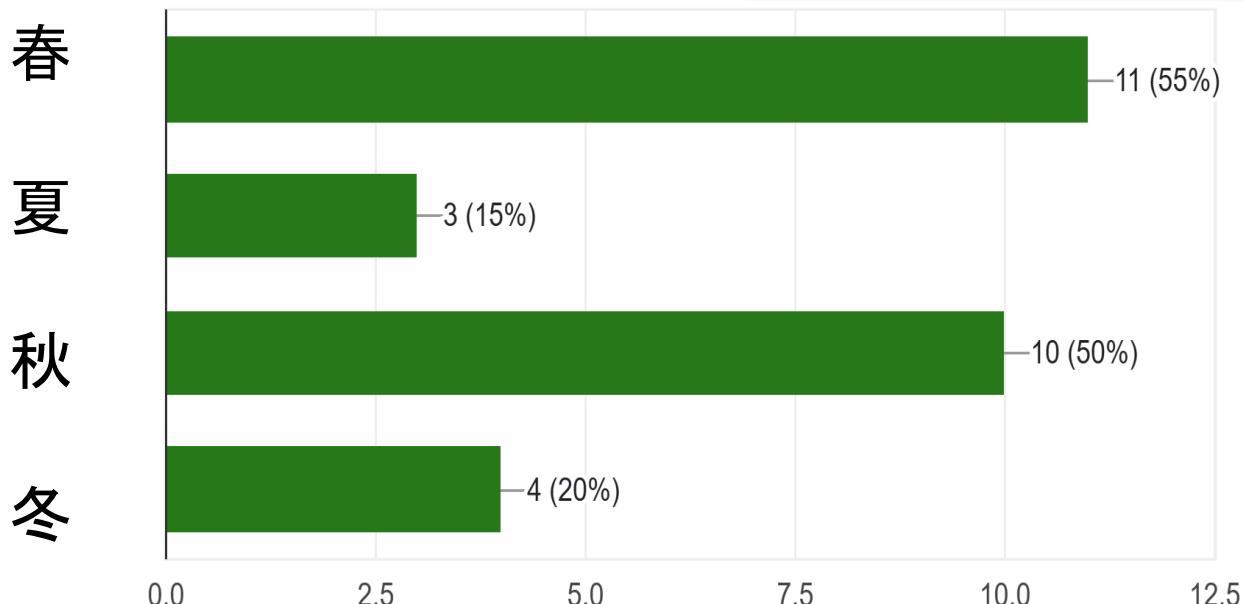
春・秋に魅力を感じる人が多い。

山菜・きのこなど季節の恵みを重視している。

⑦ 朝日町の四季の中で、一番好きな季節は何ですか。

20件の回答

複数回答が可能であり、冬を選んだ人は1つに決められず春、秋を含めたすべてを選ぶ人が多かった。



2.②アンケート調査

【考察】

自然や四季の移り変わり、その中で楽しめる季節の料理が“宝”として挙げられていたことから、朝日町の魅力は自然に「溶け込んでいる暮らしや生活」なのではないか。



2.③現地調査の結果と考察

【結果】

- ・空気や水がとても綺麗で、リラックスできる場所であった。
- ・9/30(火)という秋に差し掛かる時期に訪れたが、朝日町の魅力である秋が十分に発信されていなかつたことから、魅力を体感しきれなかったように感じた。→外部の人を受け入れる体制になっていない。

【考察】

- ・朝日町に住む人が特に魅力を感じているはずの秋に、外部への発信がなされていないことから、**魅力の発信が十分でない**ことが考察される。
- ・朝日町の方の暮らしを体験することや、それらを通した交流により朝日町の宝を外部に発信すべきでないか。

2.④ワークショップの結果と考察

【結果】

ワークショップにて聞いた宝の解説

- ・「環境整備を町内全域で協力して行う。」
- ・「顔見知りが多く互いに見守り合う。」

- ・「西洞の祭りが、外部の後継者によって継承されている。」

お祭りの際に岩手から帰ってくる方がいらっしゃる

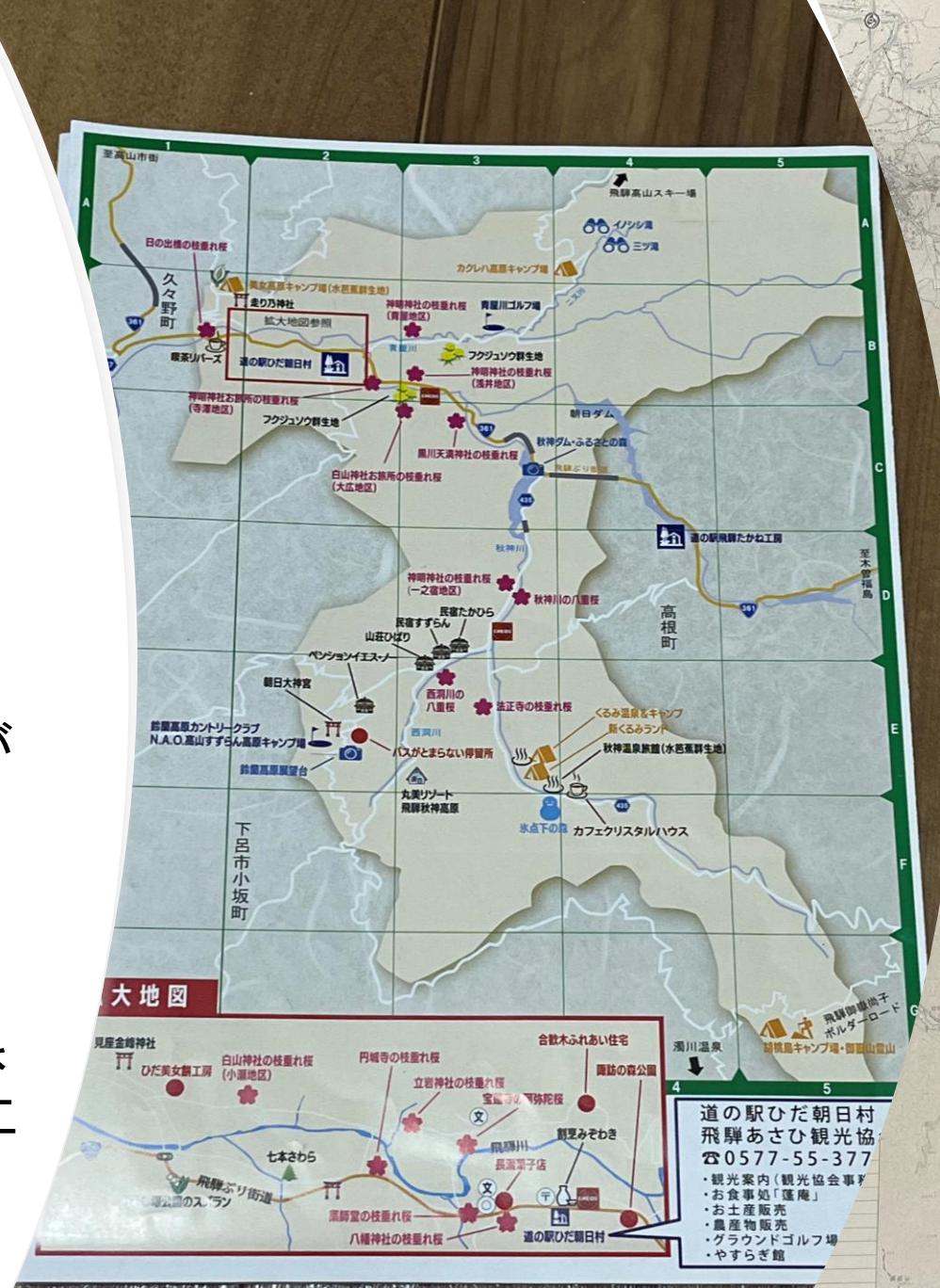
- ・「最近できたジビエの処理施設」

【考察】

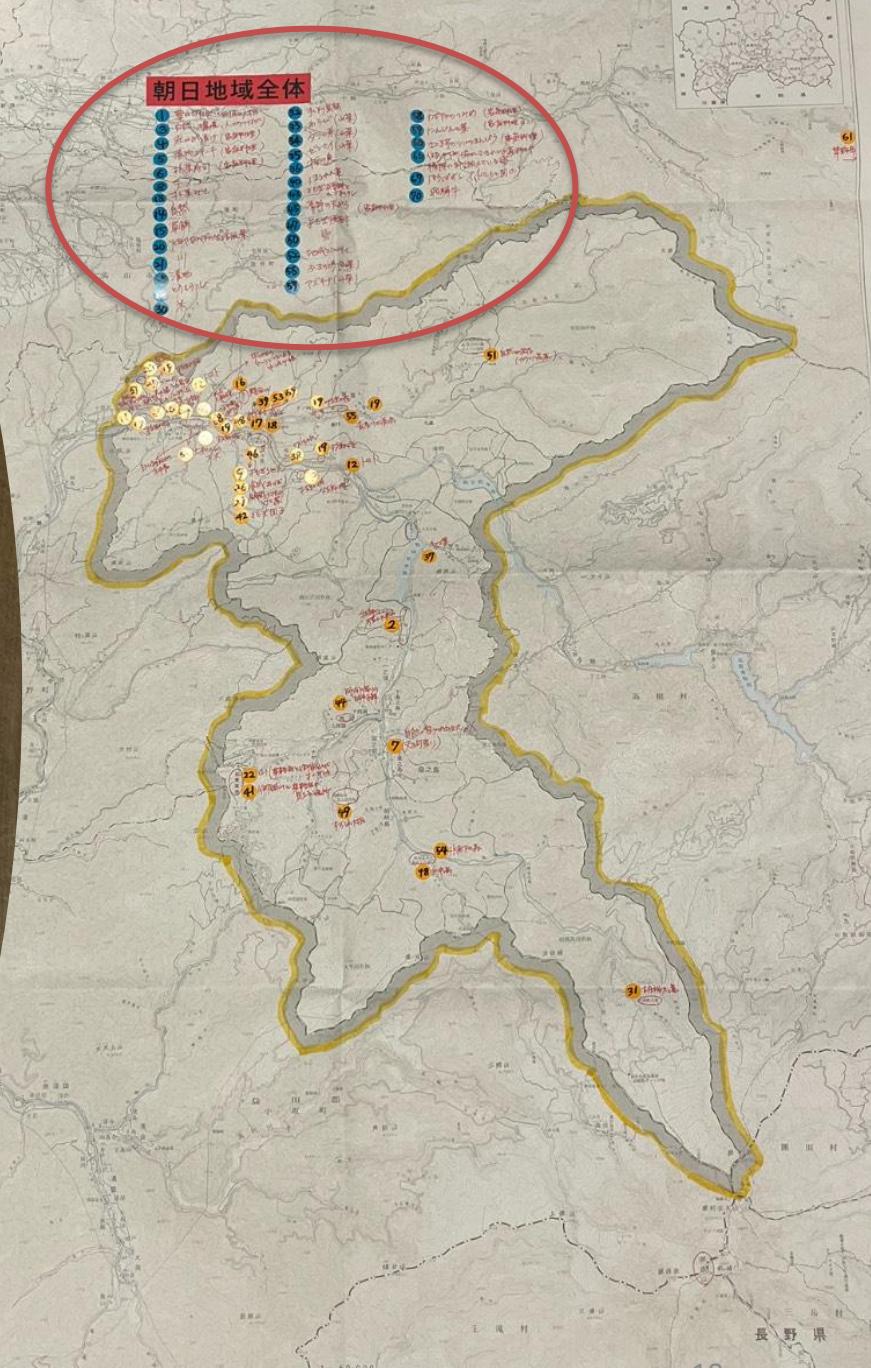
- ・内部の結びつきが強く見られた一方で、外部の結びつきは一部分的。

2. ⑤地図化の結果と考察

- 宝は朝日町全体に広く分布している。
EX)自然の景色や景観等
 - 宝に可視化できないものが
多くあった。
EX)朝日町内で幅広く取れて
いる山野草、家庭料理など
 - 観光協会のマップに掲載さ
れていないものが、多くあるこ
とが明らかになった。



飛驒あさひ観光協会パンフレット(2025)



宝マップ(朝日町支所作成)

2.⑤地図化の結果と考察

【考察】

- 既存の観光マップには掲載されていない宝が多いことから
住民の感じる魅力 ≠ 外部が認知する魅力という関係が考察される。

地域活性化が、朝日町に住む人の魅力からのものでなく、外部の人にとっての朝日町になっていくことを恐れて地域活性に対する考えが二極化しているのではないか。

→**地域の魅力を発信し、守っていく仕組み**の地域活性は受け入れてもらえるのではないか。

4. 考察

考察

- ・ 住民にとっての宝は、四季のうつろい+食+暮らし+人のつながり
EX)秋神ダムの紅葉、青屋川の清流、よもぎ等
- ・ 地域活性化に対する意識は、地域活性化のやり方によるのではないか。
- ・ 外部主導の地域活性化に対して慎重



一方で暮らしや文化を守りながら外と関わることは前向き

5. 提案

朝日町アカデミー

【提案コンセプト】

“学びを通じた関係人口づくりプログラム”参考：島根県「しまことアカデミー」
外部の人が、朝日町の自然・文化・暮らしを学び、住民と一緒に企画・活動を行う仕組み（移住が目的ではない）

【提案理由】

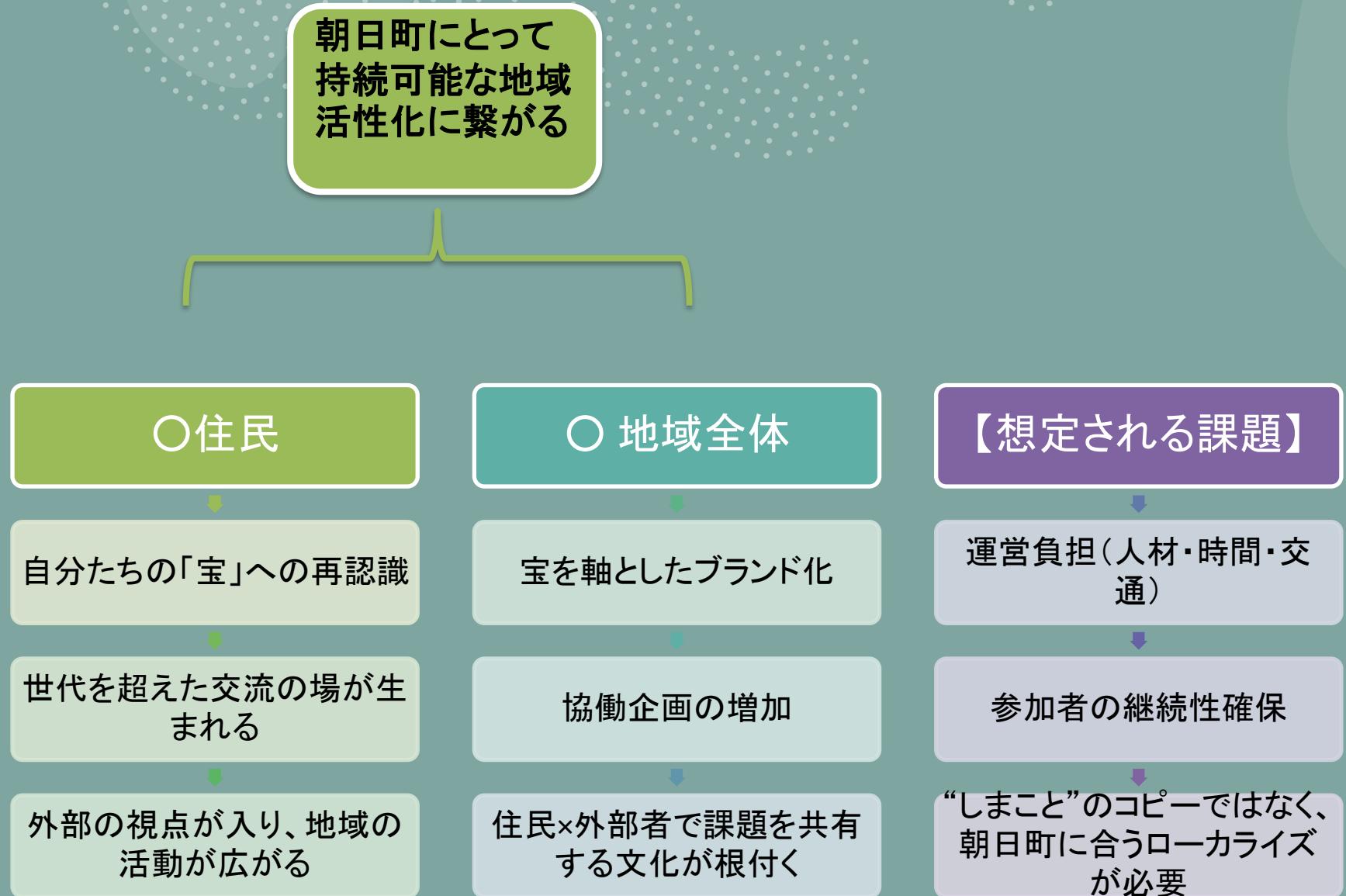
- ・住民が最も魅力に感じる＝「自然」「四季」「生活文化」
 - ・観光では魅力を十分に伝えきれていない
 - ・地域活性化に対する意識に“温度差”がある
→ 観光ではなく「関係」を基盤にした交流が必要

朝日町アカデミー

【プログラム概要】

- ・ 参加者: 都市部の学生・社会人 等
- ・ 内容: フィールドワーク、宝を使った企画づくり、課題共有、協働イベントなどの考案
- ・ 教材: 宝情報カード・宝マップ(今回の調査成果)
- ・ 運営: 飛騨朝日地域活性化協会を中心に実施

6.期待される効果 & 課題



参考文献

- ・ 高山市第八次総合計画
https://www.city.takayama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/011/771/18gousiryou3.pdf
- ・ 鈴蘭高原について
https://tunawatari21.blogspot.com/2018/09/blog-post_66.html
- ・ 朝日町世帯数
https://www.city.takayama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/001/904/r6_03_jinkou.pdf
- ・ 飛驒高山旅ガイド
<https://www.hidatakayama.or.jp/area/asahi/>
- ・ 真板昭夫「地域の誇りで飯を食う」旬報社(2012)
- ・ 田中輝美「関係人口」木楽舎(2017)
- ・ NPO法人エコツーリズム協会「地域おこしに役立つ！みんなでつくるフェノロジーカレンダー」旬報社(2017)

本調査にご協力いただいた朝日町支所の塩屋様、朝日町まちづくり協議会の皆さんに深く感謝申し上げます。

また、研究活動において日頃よりご指導いただいている海津先生にも感謝いたします。